

彩の国ペタンク通信

VOL 6

2012年1月15日発行

埼玉県ペタンク協会

企画・編集 広報部

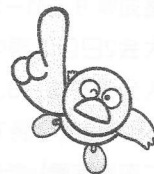
Fax: 048-536-6939 (中村)

《2012年 年頭の挨拶》

埼玉県ペタンク協会会長 河部 耕喜

当協会会員、並びに同誌読者の皆様、新年明けまして、おめでとうございます。2011年を表す漢字は「絆」でした。東日本大震災で家族の大切さを感じ、支援の輪も広がったことに加え、女子サッカー「ナデシコジャパン」のチームワークも理由に挙がったとのこと。まさに、絆を感じた1年でした。昨年の日本ペタンク・プール協会主催大会では、東日本協会対抗ペタンク大会で県代表Dチームが、日本選手権徳島大会で女子Aチームが、それぞれ優勝という輝かしい成績を上げました。これも日々の練習とチームワークの賜物と思います。技術の高い3人が揃っても、大きな大会ではなかなか優勝は出来ません。お互いの信頼と団結が伴って、成果となって現れたと思います。

「一年の計は元旦にあり」、皆様はどのような目標を立てられたでしょうか。初詣において「今年は優勝するぞ」「ティールがもっと当たるように」と願掛けした方もいることでしょう。(練習あるのみかな) 今年も県内外各地で大会が目白押しです。県内の各クラブに於いて趣向をこらした大会が多く開催しております。仲間とより積極的に参加し、各地の皆さんとペタンクを元気に明るく楽しんでください。そして、交流の輪がより大きくなることを期待しています。県協会としては、組織の充実を図ると共に、普及活動を強く進めて参ります。皆様のこの1年が、輝かしい年となりますように、ご祈念申し上げます。



《2011アジアペタンク選手権大会の観戦を終えて》

埼玉県ペタンク協会 理事 稲垣 政英

去る12月15日～19日、タイのノンタブリで開催された第15回アジアペタンク選手権大会に応援と勉強を兼ねて行ってきました。観戦して最初に驚くのはタイ、カンボジア、ベトナムなどアジアの強豪国のレベルの高さです。男子・女子・ジュニアを問わず、練習ではティールをほとんど外しませんし、ポワンテは投げれば全てピュットに30cm以内に止まります。噂に違わぬ現実に目を奪われ、「大丈夫か日本？」と不安を抱えながらも、ジュニアの試合はすべて応援することができたので、その観戦記を報告します。予選は3チーム1ブロックのブル方式で、日本はインドネシア、タイ2との対戦でした。インドネシアに11対9で勝利し、タイ2には11対13で敗戦。続くインドネシアに13対8で勝ってベスト8に進出しました。昨年10月に行われたジュニア世界選手権では、予選で敗退していたので、予選突破が1つの目標でした。



準優勝ジャエチーム 左から田中君、知見寺さん
井上監督、平出さん、芳賀さん

ベスト4を決める対戦は、シンガポール、タイ1(ジャエ世界選手権優勝チーム)、ベトナムと同じ組になり、初戦はベトナムでした。当然ベトナムが勝つだろうという雰囲気の中、日本ジャエは一步も引きません。井上勇司監督のチームワークと選手の自主性を重んじた指導も功を奏し、一進一退の攻防が続く中、次第にベトナムが崩れ始め、13対9で快勝し、2度目の歓喜が会場を包み込みました。続くタイ1との対戦は6:0とリードはしましたが、善戦及ばず7対13で敗戦。3位決定戦がないためメダルが確定するベスト4をかけて、シンガポールと対戦し、先行しては追いつかれるスリリングな展開が続いた終盤、日本のチャンスに放たれたボールは夜空に弧を描いて加点ポイントに止まり、一瞬の静寂、次の瞬間、日本陣営の歓喜が爆発しました。それは日本ジャエの銅メダル以上が確定した瞬間でした。私は我を忘れてコートに飛び込みジャエの面々を抱きしめていました。日本の選手とスタッフは皆、目に涙をためて歴史的勝利に感激し、感謝の言葉を言い合い、最高の時間を過ごしました。

しかし日本ジュニアの快進撃はまだ終わっていませんでした。1日おいた18日、準決勝は強豪カンボジアと対戦し、堂々と渡り合って8対11。劣勢の中、緊張する最終メーヌで、渾身の力口が決まり5点をもぎ取って、逆転勝利。決勝進出を果たしました。

決勝戦は、タイ1と2度目の対決、残念ながら5対13で敗れはしたものの、点差以上に相手を苦しめた好ゲームでした。メダル授与式で銀メダルを胸にかけてもらう日本ジュニアの誇らしげな笑顔、日の丸が晴れ渡る青空に上がっていく光景は、たとえようもなく万感の思いに駆られました。日本がアジアの強豪と呼ばれる日はそう遠くないことでしょう。選手のみなさん、スタッフのみなさん、本当にお疲れ様でした。そして、すばらしいひと時をありがとうございました。（さらに詳しい内容は、日本パタンク・プール協会のHPをご覧ください。写真は、日本パタンク・プール協会のHPより、）

《第26回日本パタンク選手権大会》

女子トリプル埼玉県代表 B チームが優勝、2 連覇を飾る!!

平成 23 年 10 月 29 日(土)・30 日(日)の2日間に渡り、公益社団法人 日本パタンク・プール協会主催、徳島県パタンク協会主管の下、徳島県石井町「前山公園グラウンド」を会場に第25回日本パタンク選手権大会が、全国各都道府県代表男女トリプルス各64チームの参加を得て、盛大に開催されました。大会第1日目予選会は、1回戦山梨県 B を11-3、2回戦高知県 B を11-2、3回戦神奈川県 B を11-6で下し、3戦全勝の1位通過で決勝トーナメントへ進出しました。

大会2日目は雨中の決勝トーナメントとなりましたが、1回戦三重県 B を13-2、2回戦和歌山県 B を13-9、準々決勝で大分県を13-3、準決勝で島根県を13-4、そして快進撃はさらに勢いを増し、決勝戦では和歌山県 A を13-3で勝利し見事8戦全勝で完全優勝を飾りました。昨年の埼玉大会に続く2連覇の達成です。選手の皆さんの栄誉を讃えと共に敬意を表したいと思います。今年は広島県・尾道市で第27回日本選手権大会が開かれます。優勝チームのみならず、他の選手も今まで以上に個々の力、チーム力を上げて、是非3連覇を目指して頑張ってください。

「第 26 回日本パタンク選手権に優勝して」

大澤廣美・今泉君子・井上まち子

日本選手権という最も大きな権威ある全国大会に埼玉県代表として出場し、そして優勝という栄冠を達成出来た事は、チームメイトの目標に向う強い意志と互いの信頼と支えあう気持ちが強かった事にほかなりません。

「前回の埼玉優勝は、先輩達の努力と思いやりチーム力に尽きる、それを心して2連覇してほしい」と井上理事長の叱咤激励を胸にしっかり刻み込み、臨んだ選手権でした。

ブロック予選を抜けるのも大変でしたが、決勝トーナメントでは、どのチームも寄せて当てる、油断の出来ない強豪揃いで、1球を丁寧に3人の意思を揃え集中した。



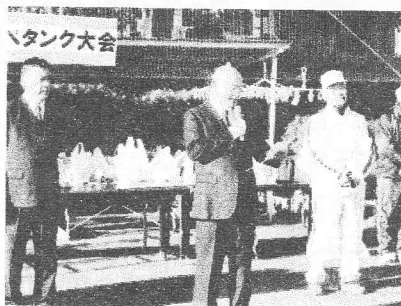
今泉君子 井上まち子 大澤廣美

午後からの雨足は強く厳しかった。一緒に雨に打たれながら応援してくれた埼玉の仲間！本当に力が湧きました。結果、私達は周囲の全てに感謝を感じる中で、優勝という限りない喜びをいただきました。本当に心から感謝致します。これからもこの大切な経験を忘れずに精進していきたいです。（写真は日本パタンク・プール協会 HP より）

《第5回三芳町オープンペタンク大会》

12月10日に、日程が変更になった三芳町オープンペタンク大会が開催されました。当日の朝は、大変よく晴れ上がり、風もなく冬とは思えない暖かい1日を過ごせると期待していました。予想どおりのよい天候に恵まれましたが、前日に三芳町では雪が降り、それが溶けてグラウンドは水分を含み、晴天の夜の放射冷却で、凍ったグラウンドが選手を待っていました。開会式頃からグラウンドの氷が溶け始め、どろんこテランが出現しました。

開会式では、林町長と山田町議会議長から参加選手へ「歓迎の言葉」と「激励の言葉」があり、暖かな日差しで、ゆるゆるになったグラウンドで予選リーグが開始されました。午前中は1球投げるたびに、泥のはねが上がり、思った通りに転がらないボールに手こずりながら、試合が進んでいきました。午後には少しグラウンドも乾いてきて、決勝トーナメントに相応しい白熱した試合が展開されました。会場設営のご苦労をした三芳町の皆さんには感謝を申し上げます。ありがとうございました。参加者は名物の芋をもらって、ほくほくで帰ったことでしょう。



【大会結果】

- 優勝 江南フォレスト：中村 孝・森 信介・森 恵美子 「どろんこの勝利です」
 2位 三商ペタンク倶楽部アサヒ：小暮 正・飯屋悦子・反中洋子
 3位 川本C：佐々木久子・井上和也・清水葉子



江南フォレスト



三商ペタンク倶楽部アサヒ



川本C

～ ペタンク講習会のご案内 ～

私達は、正しいペタンクのルールやマナー、試合方法を理解して頂き、実際にやってみよう！と考える人を増やし、バックアップして行きたいと思っております。埼玉県ペタンク協会指導部は、県内の各市町村に指導者を派遣して講習会を開いています。お気軽に右記までご連絡ください。

連絡先：〒369-1105 埼玉県深谷市本田128-2

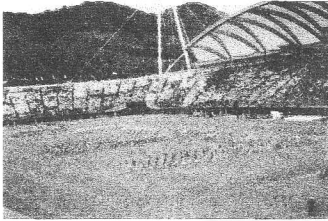
指導部部长 井上まち子 TEL：048-583-5300 Fax：048-583-5115

- 1月22日(日) 埼玉選手会(熊谷) 熊谷・さくら運動公園自由広場 (市民プールの隣、新幹線寄り) 9:00～
 1月28日(土) FJPB公認C級審判員認定試験 対策講習会 深谷市菅沼401 もくせい館2F研修室 9:00～15:00
 2月5日(日) 審判員認定会 検定料2000円 会場は川本公民館。講習後に検定があります。C級の暫定審判員
 になっている方は是非受講してください。暫定審判員の検定料は無料、しかし受検しないと資格は5年で失効。
 2月19日(日) 初級普及指導員 講習会&検定会 9:00～16:30 深谷市菅沼401 もくせい館研修室とグラウンド

《ねんりんピック2011熊本大会に参加して》

新座市ペタンク協会;清水 紀男

10月14日埼玉県選手団(19種目148名 役員も含む)羽田空港に集まり、福岡空港へ向う。菊池温泉の菊池グランドホテルで懇親会を行なう。翌15日はバス4台に分乗し熊本へ。熊本県民総合運動公園陸上競技場で総合開会式。常陸宮ご夫妻の臨席する会場に、入場行進で埼玉県代表は小さな鯉のぼりを手に、52番目で入場した。また、さいたま市は、次の53番目に続いた。式典は、開会宣言、国旗・大会旗・県旗の掲揚、炬火入場から点火(柔道の山下泰裕氏)、



主催者の挨拶、歓迎のことは、皇族のおことは、くまもと夢・未来宣言、被災地選手団協同宣言と続き、皇室の退席後、アトラクションに移った。「世代をつなぐやさしい風」熊本が誇る多彩な民謡を現代風にアレンジして、子どもたち、親世代、ねんりん世代が一つとなつての踊り、「時空を超える美しい風」八代妙見祭の亀蛇・獅子舞・矢部八朔祭の大造り物、玉名大俵まつりの大俵が登場する郷土芸能、「未来を感じる力強い風、民謡「牛深ハイヤ」を若者世代とねんりん世代と一緒に明るく元気に踊りファイナルへと、水前寺清子さんが登場、全出席者が登場。観客席も一つになつての大合唱の中、「夢」「未」「来」の文字を空高く掲げ、閉式となった。終了後、種目別の会場に近い宿泊地に向つた。ペタンク選手団は南関町のホテルセキアで、埼玉県の選手は、さいたま市の選手と一緒に行動した。

16日よりペタンク交流大会の開始。ホテルよりペタンク会場の和木町総合グラウンドまでバスで向かい、受付を済ませ開始式へ、入場行進には、地元幼稚園児の演奏する曲に乗って行進、戦いの場に来たことを身を感じたことでした。予戦の「0ブロック」の対戦相手は、順に熊本県C・横浜市・京都府と戦い、いずれも11対6のスコアでグループ1位で決勝トーナメントに進むことができた。第3試合の時間帯に特設コートにて、常陸宮様ご夫妻を迎えて「御前試合」が行われた。対戦者は、さいたま市:熊本県Aと熊本県D:宮城県だった。宮様へのペタンクの解説は、本山健一熊本県ペタンク協会会長が行なった。皇族がペタンクを見るのは、始めてのことかと思われた。さいたま市の成績は、第一試合5:11 滋賀県、第二試合 11:10 岩手県、第三試合 8:11 熊本県A で、予選敗退でした。

予選参加チームは、47都道府県と政令指定都市を合わせて72チーム。決勝トーナメントには、予選1位の18チームと、予選2位グループが抽選とカトラージュ戦を行い、合計32チームが進んだ。16日の夕食を兼ねた歓迎レセプションでは、特別表彰、交歓ティール合戦の上位者表彰、と講演(和木町在住ペタンク愛好者の身体運動機能等に関する報告:九州看護福祉大学 川俣幹雄先生)・アトラクション(お子さんたちによるコーラス・お母さんたちのコーラス・古舞踊・ひょっとこ踊り)と埼玉の女性が「手作りの金魚」を参加者全員に配ることなどを含めて、舞台が空くことなく続けられ楽しい場を作って貰いました。和木町の町上げての歓迎に酔いしれるときを過ごしました。同席のテーブルに岩手県のチームの方がおり、江南大会で再会することを約しました。隣のテーブルがさいたま市でした。

17日は、決勝トーナメントとなり、初戦は、千葉市(鈴木夫妻・宮澤・伊藤)顔見知りのチームと対戦、13:9で勝ち、第二戦は、広島市に7:13で敗退。2回戦の壁を破ることが出来ませんでした。

チャン스는あったと思いますので残念です。因みに広島市は、決勝に進み準優勝されました。優勝は、島根県。第三位は、大阪府と滋賀県でした。対戦が全て終了、昨夜の「ひょっとこ踊り」の指導をさいたま市の宮崎さんが申し入れ、急遽役場から指導員が3名見えられ、ホテルのロビーが講習会場となり、各県の方々50人ほどが集まり、違ったふれ合いの場を作ることが出来ました。昨年の石川大会の交流や日本選手権埼玉大会等の熊本県の方々との触れ合いがあったことによるものでした。"人と人の絆"大事だなとつくづく思いました！



ベスト16の優秀賞をもらって



60歳・70歳を過ぎたペタンク愛好者の皆さん、是非、ねんりんピックを体験してみてください。挑戦しましょう！！